

学校教育目標	未来を拓き 人間力豊かに 学び続ける高見っ子の育成		
a ミッション	〇小中連携教育を基盤としたカリキュラム・マネジメントの推進による主体性・表現力の育成	a ビジョン	人間の根っこを育てる学校づくり

尾道市立高見小学校

評価計画				自己評価					学校関係者評価			改善計画		
b 中期経営目標	c 短期経営目標	d 目標達成のための方策	e 評価指標	f 目標値	7月	1月	h 達成度	i 評価	j 結果と課題の説明	k 二次評価			m 改善案	
					達成値	達成値	達成度			イ	ロ	ハ		
気付け、考え、行動する子供の育成 (主体性・表現力・関わり合い)	関わり合いを通じた主体的な学びの確立  児童が自信を持って科学的に表現する力の育成	科学的に表現できる児童を育成するために、交流活動を充実させた教科研究を行う。	算数科（1～3年生）・理科（4～6年生）各単元末の振り返りにおいて表現したもののB評価以上児童の割合	75	85	-	113	A	・授業で意図的に交流活動を取り入れ、学習したことや生活経験をもとにした自分の考えと友達の考えを比べたり、質問したりする中で自分の考えを広げたり深めたりする活動を行った。また、単元の終わりに書かせる「まとめノート」により、視点を決めて学習内容を整理することができた。	3	0	0	・自分の考えを書くことが負担になっていないことに少しおどろきます。生活についても書くことを大事にしてほしいです。 ・児童の中にある問いを大切にされている等、新たな学力を意識されていると思いました。 ・授業の中で対話や意見交換、教え合いを取り入れられていて良いと思いました。仮説を立て、新たな問いを考えること、そして生活への応用までシートを活用し、とても素晴らしい授業だと思いました。	交流活動のイメージや目指す姿を具体的に共有して、交流の仕方を指導したり、交流のねらいを明確にして指導したりできるように、授業改善を進めていく。
		基礎的・基本的な学力を高めるために、補充学習を行う。	国語科・算数科・理科単元末テスト（知識・技能）における平均通過率	85	国語 85.6 算数 86.8 理科 90.8	-	国語 101 算数 102 理科 107	A	・授業改善や児童一人一人の実態に合わせたオンライン学習が、学力の定着につながっている。 ・個人差は依然として大きく、個に応じた指導をさらに充実させる必要がある。 ・学力調査の結果を生かし、取組の一層の改善を図る必要がある。	3	0	0	・積み重ねることの大切さを感じました。 ・平均通過率を見ると先生方の努力がよく分かりました。 ・電子教材を活用して一人一人に合わせた学習を取り入れられていることは、今後につながるチャレンジだと思いました。	家庭学習や補充的な学習についても、児童の実態に合わせて進めていけるよう、保護者とも丁寧に連携しながら学習を進めていく。また、学力調査の結果分析を指導に生かしていく。
自己を振り返り、よりよく生きようとする態度の育成	人との関わり合いを通じた、相手意識をもった人間関係の形成  自らの生活を振り返り、よりよく生活しようとする態度の育成	「しまっこしぐさ」を基盤とし、発達段階に応じたあいさつを通して相手意識をもったあいさつができるようにする。	毎月のあいさつ週間カードの「振り返り」に、「友達のよいあいさつ」を見つけた児童の割合	80	60	-	75	C	・7月のふりかえりでは友達の挨拶の良さなど、周りに目を向けた記述が増えた。また、児童会の生活目標と運動させるなど、取組を全体化する活動ができている学年は達成率も高くなっていった。 ・昨年度とふりかえりの書き方が異なり、視点が明確になりやすくなった。また、個人への取組にとどまり、児童同士が視点を共有できていない実態があった。	3	0	0	・ふりかえりは現役のときから毎日書かせることに意味があるのかと感じていたことですが、ずっと続けているということはおそらく成果のあることなのかと試行錯誤… ・最近の気候もあり、外でのあいさつ等、大人でも疲れている場面があります。そんな中、がんばっているかと思えます。 「ふわふわことば」と「チクチクことば」というネーミング、子供たちが考えて目標にされているという点がとても良いと思いました。 ・達成値については、短期経営目標に対して別の指標を試してみても良いのでは？と思いました。	担任の励ましに加え、学級全体で振り返りを確認する、児童会活動・委員会活動と連動させるなど、児童同士が視点を共有できるよう取り組む。
		成果を実感できるよう、生活上のめあてを明確にし、それを意識した振り返りをさせる。	生活リズムチェック表において、早寝・早起きを達成できた児童の割合	80	84	-	105	A	・起きる時間、寝る時間を平日と休日に分け、国立睡眠財団による睡眠時間の目安を「ほけんだより」に掲載し、参考にしながら各家庭で目標時間を設定してもらった。 ・金曜日や休日はメディアの使用時間が目標時間を過ぎ、それに伴い寝る時間も遅くなってしまおうという傾向がある。家庭でのメディアルールを作るなど、上手にメディアと付き合っていく必要がある。	3	0	0	・スマホを2時間は見ている自分を見るにつけ、つきあひ方のむずかしさを感じます。ライン、YouTube、ゲーム、インスタグラム…理設しない子どもを育てていってほしい。 ・よいとりくみなので、ぜひ続けてほしいです。 ・生活リズムやメディアの使用時間などは、その子の今後の成長や生活においても大事なことで重要なことだと思いました。今後とも良い指導をお願いします。	「ほけんだより」や保健指導等でメディアとの付き合い方、睡眠の大切さについて触れていくほか、個別の指導、保護者への協力・声かけも行う。また、保護者の方からの意見や感想を「ほけんだより」でフィードバックしていく。
		異学年交流と外遊びをする機会を作り、友達と体を動かす楽しさを感じさせることで、運動好きな児童を増やす。	体を動かすことに肯定的な児童の割合（児童アンケート）	80	83	-	104	A	・4、5、6年生は8割、2年生は9割を超える児童が「運動が好き・やや好き」と答えたが、1、3年生は相対的に割合が低くなった。否定的な回答の理由は「運動や走ることが得意ではないから」「汗をかいたら」「疲れる・面倒くさい」というものであったが、運動に対して否定的でも、誰かと一緒に何かするのは楽しいと答えている児童もいた。 ・児童の運動に対するイメージを、得意・不得意に関係なく、誰でも簡単に行うことができないというものに変えていく必要がある。また、体力向上が児童にとってどのような良い効果があるのかについても発信していく必要がある。	3	0	0	・「めんどくさい、疲れると書けることがすごいですすね」と言われた会長さんの一言がひびきました。誰かにとってほしいです。 ・外での活動は、本当に気を遣うところだと思います。 ・結果と課題の説明にある内容に賛同します。みんなが運動や体を動かすことを好きになって、健やかに育って貰えればと思います。 ・主旨とはずれますが、子供たちが先生に本音で話している関係性がとても素晴らしいと思いました。	委員会等と連携しながら、体力向上の大切さに触れつつ全校遊びを実施し、取り組みやすい運動の例やその効果を全校に向けて発信していくことで、運動に対して前向きな児童を増やしていく。

【自己評価 評価】

A: 100≦(目標達成)  
C: 60≦(もう少し) < 80

B: 80≦(ほぼ達成) < 100  
D: (できていない) < 60

【外部評価】 イ:自己評価は適正である。ロ:自己評価は適正でない。ハ:わからない。